

岩代須賀川本町 服部水仙子

「ナール程そりや……そして現役かね豫備かね」
きせる
 煙管をポンと一つ

「なめに豫備がすよ、去年三年勤務^{つとめ}て歸^{けい}ると間もな
く招集^{あけ}られたがす、普通^{あたりめい}ならはあ童^{わらし}の二人も有る年
がすのよ」

何處^{いとはり}の家でか鶏^{にほとり}の鳴聲、アゝと欠伸^{あくび}一つ後の畑^{うしろ}から
聞えた。

「丈夫^{けい}で歸^{けい}つてくりや、直^{すぐ}に嫁貰^{よめ}つて呉^{くれ}れべいと思つ
て今から探^{たづ}してるのがあすアハゝゝゝ」



客も笑つた、饅頭^{まんとう}を食ひながら、

「婆^{ばあ}さんにや早く死なれて頼^{たの}むは彼^{かれ}ばかりがすが誠
にはや宜^よく出来^きやしてな……なめに親^{おや}は無^なえでがす、
今は生きてんだか死^しんでんだか判^{わか}明^りましねえだ」

日は豫程^{よちやう}高くなつた、客は風呂敷包^{ふろしき}を取つて立ち上つ
た、と爺^{おや}の鼻^{はな}の灯^{ちやう}提^{てい}危^{あぶ}険^{ない}と見る間にポタリと火鉢^{ひばち}の縁^{えり}
に落ちてヂリ。

